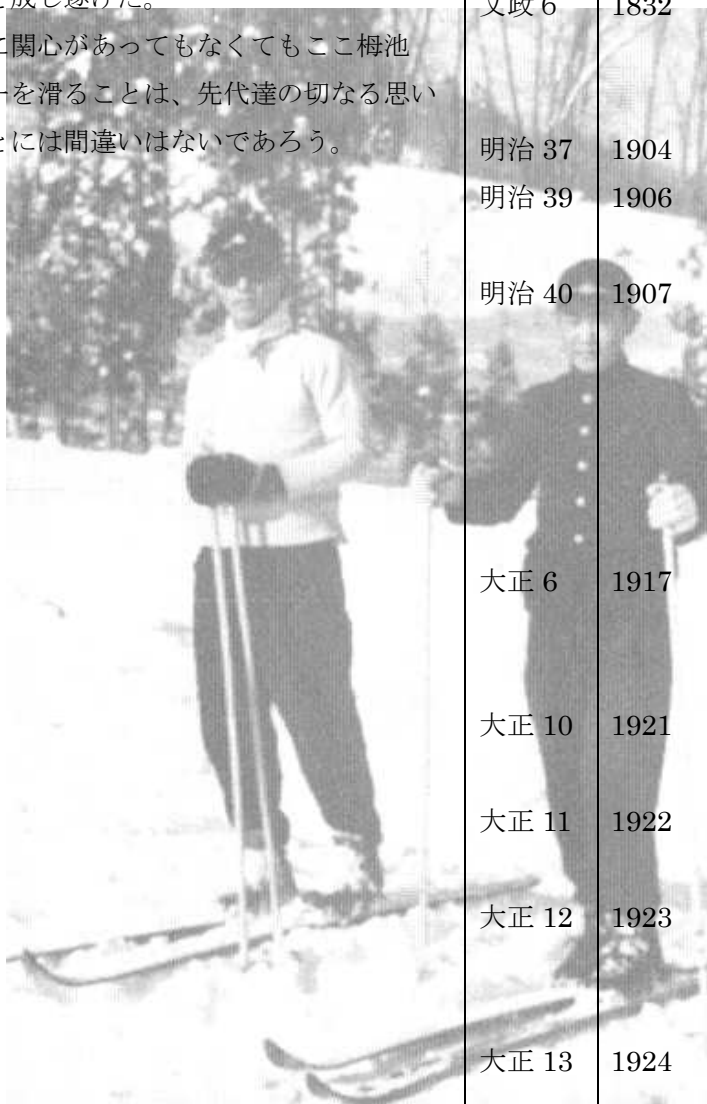


梅池開拓史年表

今や近代的な発展を遂げた梅池はそのむかし萱葺屋根の材料「萱」を採る場所であったが、その類稀な地形ゆえ何時しか先代達の手によってスキー場の開発へと変わっていった。

しかし、当時パイオニア的だった梅池のスキー場開発は困難を極め、村の人々は私財を投げ打ってこの偉業を成し遂げた。

この歴史に関心があってもなくてもここ梅池高原でスキーを滑ることは、先代達の切なる思いであったことには間違いはないであろう。



西山ヘリポートに見える祠

年代	西 暦	事 柄
享保 7	1722	細野村と塩島村（現在の白馬村北部）との間に正徳以来9年間つづく山争いに裁許のため幕府から役人が出張、13ヶ村から1200人が出て乗鞍岳（現ヘリポート上部西山大斜面）まで刈り払いをして役人を案内する。
享和元	1801	小蓮華山山頂に大日如来像が祀られる。
文政 6	1832	千国村と塩島村との間に草刈場（現鐘の鳴る丘付近）を巡る山争いが7年続き決着する。
明治 37	1904	白馬乗鞍岳山頂に2等三角点撰点
明治 39	1906	志村烏嶺、高頭式ら蓮華温泉～雪倉山麓を経て白馬岳に登頂
明治 40	1907	小蓮華岳に3等三角点撰点 この頃唐松沢から山ノ神～千国揚げ（標高1900m付近）を経て蓮華温泉へ道（雪倉鉦山道）がつけられ、雪倉鉦山へ物資が輸送された。昭和10年代まで登山者も通った。
大正 6	1917	新潟県西頸城郡役所が県費で白馬大池まで道を整備し、白馬大池池畔に巨岩を利用し避難小屋を建設。
大正 10	1921	南小谷池原の細野丑治は白馬大池に小屋を建て経営をはじめめる。
大正 11	1922	白馬連峰一帯が「白馬連山高山植物帯」として国の天然記念物に指定。
大正 12	1923	北城村 松沢米太郎は白馬大池池畔に50人収容の山小屋を建てる。この頃神ノ田圃に落倉の爺が経営する茶屋があった
大正 13	1924	南小谷立屋・峰の青年会が 黒川沢～山ノ神～天狗原～大池の登山コースを整備
昭和元	1926	神ノ田圃の茶屋が閉鎖。
昭和 2	1927	北城村の後藤敏が中心になり天狗原山頂（現西山ヘリポート）に白馬岳神社を祀る。
昭和 6	1931	神ノ田圃に早稲田大学山岳部の山小屋が完成する。

年 代	西 暦	事 柄
昭和 8	1933	白馬館が大池小屋の権利を買い 1 棟新築し、湿原（現梅池自然園）入り口付近に梅池ヒュッテ新築
昭和 9	1934	梅池上部～西山一帯が「中部山岳国立公園」に指定される。
昭和 10	1935	東京鉄道局主催の春の梅池スキーツアーが開催される。
昭和 11	1936	成城高校山岳部が湿原下に山小屋を建設。
昭和 14	1939	第 1 回白馬スキー滑降大会開催。天狗原を出発しゴールは落倉。全長約 10,000m 標高差約 1,300m
昭和 22	1947	映画「鐘の鳴る丘」ロケ。これが鐘の鳴る丘ゲレンデの名の由来である。
昭和 23	1948	旧国鉄の「川内下駅」（現白馬大池駅）が完成。請願駅だったため一部建設費・資材・労働力は全て地元負担。
昭和 24	1949	川内 5 件の民宿が「白馬大池観光クラブ」を設立。鐘つき堂地籍（現鐘の鳴る丘付近）を刈り払い「鐘つき堂スキー場」とする。白馬大池民宿組合設立し梅池観光協会の前身となる。
昭和 27	1952	「白馬連山高山植物帯」は国の特別天然記念物に指定される。
昭和 28	1953	民宿経営は許可制となり、この時 8 件が許可を取得した。
昭和 30	1955	地元青年団により白馬大池スキークラブ設立。現スキースクールの前身となる。
昭和 32	1957	白馬館が鐘つき堂地籍でスキー場経営に着手。
昭和 34	1959	林道大池自然園線の工事着工。
昭和 35	1960	白馬館が鐘の鳴る丘にリフトとロッジを建設。「白馬大池スキー場」と改称。
昭和 37	1962	白馬館がリフト 2 本増設し照明設備を建設。同年、白馬観光開発(株)が開発に着手し、からまつ・しらかば・東急山荘建設。「梅池スキー場」と改称。



白馬館が建設した「鐘の鳴る丘ヒュッテ」



白馬観光開発株式会社が親の原グレンデに建設した「からまつリフト」
中央の山は現在のチャンピオングレンデ
当時まだ未開発であった。
左には白樺グレンデが見える。



昭和 30 年代のポスター

年代	西 暦	事 柄
昭和 38	1963	民家がなかった現梅池民宿街に川内から 1 件移住し、これが梅池民宿街の誕生となる。
昭和 40	1965	第 38 回全日本学生スキー大会開催。 御殿場（現梅の森グレンデ）までの林道完成。
昭和 41	1966	第 39 回全日本学生スキー大会開催。
昭和 45	1970	梅池自然園計画発足。信大羽田教授 大町山岳博物館長沢氏ら視察。 地元出資により梅池観光開発株式会社が発足。親の原・チャンピオン開発スタート。梅池第 1 リフト建設。 梅池駐車場完成。 林道大池自然園線開通。梅池自然園が開園 楠川まで 1531m(内木道 934m)完成 この頃より地元有志によるヘリスキーが行なわれるが詳しい資料はない。
昭和 46	1971	梅池自然園入口に駐車場とトイレ整備。
昭和 47	1972	第 1 回梅池雪の祭典開催。現在白馬エリア最大の祭へと発展する。
昭和 48	1973	村宮梅池山荘新築。
昭和 53	1978	第 1 回梅池みずばしょう祭開催。春の恒例行事として定着する。
昭和 56	1981	第 18 回インターハイ開催。
昭和 57	1982	梅池ゴンドラリフトが建設され「イヴ」と命名される。
昭和 60	1985	シンボル「とんがり帽子の塔」が完成。 恋人の聖地と呼ばれるようになる。
昭和 61	1986	梅池自然園の楠川～浮島湿原まで遊歩道を整備。翌年展望湿原まで延長する。
平成 2	1990	鐘の鳴る丘にスノーマシンを導入。 梅池ゴルフセンターがオープン。 梅池駐車場全面改修。 東急山荘を雪の広場に建て替え。 梅池で高速リフト建設ラッシュが始まり 平成 7 年までにほとんどのグレンデが高速化になる。
平成 3	1991	親の原にスノーマシン導入する。
平成 4	1992	インターカレッジジャンプ競技会開催。

年代	西暦	事柄
平成 5	1993	梅池ロープウェイの計画が認可される。
平成 6	1994	インターハイスキー競技会が開催される 梅池ロープウェイが運行を開始し、同時に大池線へのマイカー乗り入れが禁止となる「梅池パノラマウェイ」と命名。 梅池ビジターセンター完成。
平成 7	1995	梅池スキー学校の新校舎を建設。木造から近代的な校舎となる。
平成 8	1996	梅池観光開発株式会社が温泉の掘削。現梅の湯の源泉となる。
平成 9	1997	梅池温泉元湯「梅の森荘」がオープン。 全国公認スキー学校アニバーサリーが開催される。 村営梅池山荘が移転新築。 梅池中央駐車場の舗装改修工事。 梅池ヒットパークが本格的に整備される。 自動改札機が導入される。
平成 10	1998	梅池パラグライダースクールが誕生。 エリア名「スカイワンダーランド」 梅池ヒュッテが移転新築。 全国高等学校選抜スキー大会開催。
平成 11	1999	白馬アルペンリゾート三山共通券発売。 「梅の湯」がオープンする。効能 うちみ・ねんご・冷え性など スノーボードがブレイクし全面解禁になる。
平成 12	2000	鐘の鳴る丘にチビッコパークが誕生。 ヘリツアアでボードが滑走可能になる。



開業当時の梅池バスターミナル

年代	西暦	事柄
平成 14	2002	旧梅池ヒュッテを小谷村が整備し記念館として開放。
平成 15	2003	小谷村営バスが運行開始になり、スキーヤーの移動が便利になる。 ロッジ樺旅館主屋が国登録有形文化財に登録される。
平成 16	2004	牛方宿を復元工事し、館内を史料館として整備。
平成 17	2005	冬季初スピードパラグライダー登場。
平成 18	2006	国内初スピードパラグライダースクール開校。
平成 19	2007	映画「銀色のシーズン」ロケがスタート。 バス待合所「まちてえ」完成。 JIB PARK スタート。 梅池自然園のみずばしょう湿原の一部木道をバリアフリー化。
平成 20	2008	梅池ウッドチップロード着工。 国内最大モンスターキャニオン初開催。
平成 21	2009	梅池ウッドチップロード完成。 大北植樹祭開催。 牛方宿が県指定文化財に登録される。
平成 22	2010	子ども冬まつりを開催。 梅池バイパス橋本体工事着工。 梅池限定「ゆきどけサイダー」発売。
平成 23	2011	鐘の鳴る丘にリフトがかけられてから開業50周年を迎える。

この地にスキーがもたらされ70年以上。西暦2011年梅池高原は開業50周年を迎えます。

※ 多数の資料や書籍「梅池誌」のほかにお年寄りのお話などを基に作成しています。